

大山町所子伝統的建造物群保存地区の概要

【立地】

所子集落は、中国地方最高（1709m）を誇る霊峰大山の北西麓の標高 50m前後の緩斜面上に立地し、南東に大山、南に孝霊山（751m）を仰ぎ、北西に日本海と島根半島を臨む眺望に優れた場所に位置します。大山奥部から日本海に注ぐ阿弥陀川からの水利を生命線とする田畑を生産基盤として発展した農村集落です。

【歴史】

所子の地名は、鎌倉時代の 13 世紀前半頃に京都の下鴨社領の一つ「伯耆国所子庄」とあるのが初見です。賀茂大明神や糺大明神の創建時期は不詳ですが、古くからの社と伝えられています。近世初めの所子村は、それらの社殿の再建や願成寺（大山町平木）の創建を行った有力者の美甘家などを中心に賀茂大明神と糺大明神の社の間の里道を中心軸として、近世所子村の祖形が形成されました。

江戸時代中期になると、豪農となった門脇家が汗入郡西構の大庄屋に任命され、明和 6 年（1769）に村の北西の離れに役宅を兼ねる大形の居宅を構えました。その後、門脇家周辺に分家の南門脇家や東門脇家をはじめとする家屋が建ちはじめ、江戸時代後期にかけて新たな家屋群が形成されました。こうして元の村落であった家屋群を「カミ」、その北西の新たな家屋群を「シモ」と呼ぶ村落形態となりました。

近代になると、明治 22 年（1889）の所子村ほか近隣 11ヶ村の合併で行政村としての所子村が誕生し、その村役場が所子村に置かれ、次いで精華尋常小学校などの諸施設も置かれるようになりました。その周辺に新たな家屋群が形成されるようになり、所子村の家屋が立ち並ぶ範囲が拡大し、現在の集落の姿となっています。

【町並みの特徴】


所子集落の農家敷地は、集落内を通る道に主軸方向に沿わせた主屋、その周囲に建てられた長屋門、蔵、納屋、厩舎などの諸施設が配されています。それらの建物には、近世から昭和 30 年頃に建築された伝統的な建築物等が多く残され、伯耆地方の農村の伝統的な形式をよく伝えています。

賀茂神社北正面の「神さんの通り道」と呼ばれる帯状の空間を挟んで、所子の「カミ」「シモ」の家屋群が位置する集落形態は、所子集落において歴史的に形成された個性的な景観です。それらの周囲に位置する近世以降の地割を伝える田畑、農家の敷地や田畑周りを縦横に巡る水路などが、家屋群と一体となって伝統的な農村景観を形成しています。

所子集落の伯耆地方における伝統的な農村の歴史的風致をよく伝える景観が高く評価され、平成 25 年（2013）12 月 27 日に国の重要伝統的建造物群保存地区（面積 25.8ha）に選定されました。



天保 14 年（1843）6 月 『汗入郡所子村田畑地続全圖』（所子集落所蔵）

 重要伝統的建造物群保存地区

お問合せ先 | 大山町教育委員会事務局（〒689-3211 鳥取県西伯郡大山町御来屋263-1）
TEL:0859-54-5212 FAX:0859-54-5217 E-mail:syakai@daisen.jp

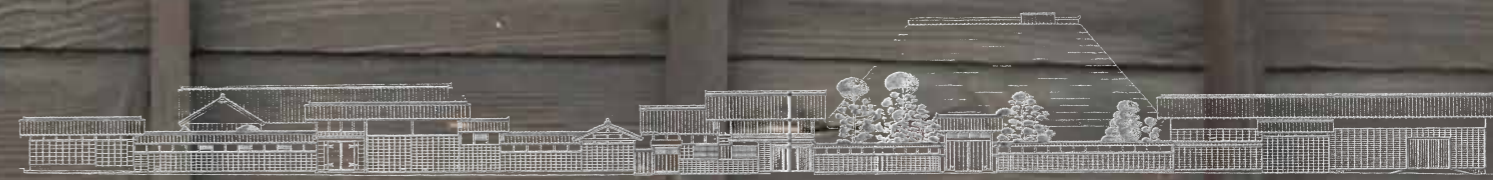


大山町
だいせん

【大山町所子伝統的建造物群保存地区】

所子
ところこ

大山の麓にひっそりとたたずむ
農村の暮らしが息づくまち



鳥取県大山町

所子散策MAP

① 所子村役場跡

明治22年(1889)、所子村ほか11ヵ村が合併して行政村の所子村が誕生し、もとの所子村は行政村内の一集落になりました。村役場が所子集落内に置かれ、行政村の中心地となりました。(役場は昭和16年に移転)



② 精華尋常高等小学校跡

明治40年(1907)に木造校舎が建てられました。その後に国民学校、所子小学校と変遷し、昭和51年(1976)の廃校まで子どもたちの学びの場でした。現在はその跡地と敷地周りの石垣が残っています。

⑦ 国登録有形文化財 美甘家住宅

美甘家は、元龜2年(1571)の尼子残党と毛利氏との戦で、毛利方の使者となった当地の土豪美甘与市左衛門の子孫と伝えられています。初代・弥左衛門は17世紀初めに賀茂・糺大明神の社殿再建や願成寺創建を行った有力者として知られます。美甘家の主屋は、江戸時代末期に建てられた厨子二階建のもので、安山岩の棟石が見られます。また、表門は集落内で唯一の左棧瓦葺です。(一般公開はしていません)



⑧ 石造薬師さん

柏屋(屋号)の門脇権兵衛が、寛政元年(1789)に村人の無病息災を祈念して、村内に建立した石造の薬師如来坐像です。



⑨ 境界木(タブの木)

タブ(別名コガ)の木は、水分が多いため、建材には使われませんが、風除け・防火を兼ねる境界木として植えられていることが多かったようです。この木は、樹齢数百年と推定されています。



⑩ 水車小屋

かつて所子には8棟の水車小屋がありました。現在は水車はありませんが、その名残りの小屋建物が2棟残されています。

⑪ カ石

農村の若者が力自慢を競ったカ石が自治会館の前に残されています。カ石は米俵16貫(60kg)を基準としてあり、所子のカ石には16貫目と22貫目(82.5kg)の重量を示す文字が彫られています。



③ 砲身塔

大正12年(1923)に帝国在郷軍人会所子分会が、巡洋艦「春日」の砲塔を海軍から下付され、日清・日露戦争での戦没者の慰霊のために建立したものです。

④ 賀茂神社

賀茂神社は古くからの神社で、明和5年(1768)には21柱の神々が祀られていました。現在の社殿は大正3年(1914)に再建されたものです。



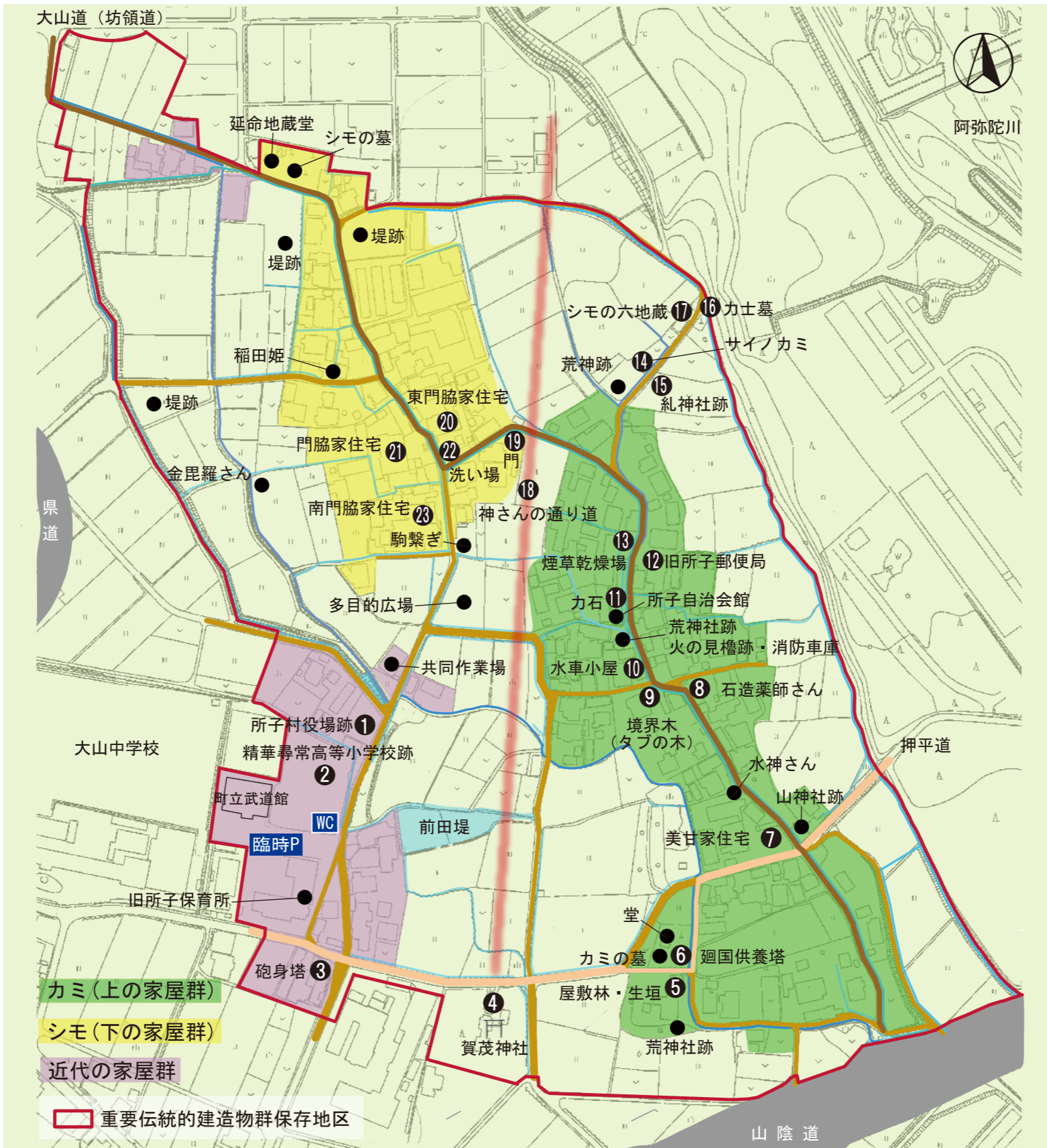
⑤ 屋敷林・生垣

屋敷周りには塀のほかに、風除け・防火・目隠しなどの役割で常緑樹が植えられています。集落南側のカミの家屋群では、生垣・屋敷林が多く見られます。



⑥ 日本廻国供養塔

集落内の坊領道は大山寺参詣道で、参詣者や巡礼行者が通行しました。この供養塔は、巡礼途中に行き倒れて所子で亡くなった周防国の行者の供養のために文化11年(1814)に建立されました。



⑫ 旧所子郵便局

大正7年(1918)に、門脇家(通称・店門脇家)が自宅の一角で郵便局を開局し、人々の利用に応えました。昭和27年に大山口駅付近に移転されましたが、当時の看板が残されています。

⑬ 煙草乾燥場

所子では昭和12年(1937)頃から煙草栽培が始まり、昭和41年(1966)頃には10軒の煙草農家がありました。今では1軒になっています。この煙草乾燥場は昭和28年建立で、唯一現存する煙草乾燥場です。

⑭ サイノカミさん

サイノカミは災いや悪病が村に入るのを防ぎ、また良縁をもたらす神などとして信仰されました。このサイノカミは男女の双神像です。所子では現在も12月14日の深夜に、しめ縄を替えて藁馬を供え、付近の木に藁の大草鞋を吊るして祀ります。



⑮ 糺神社跡

糺大明神は、明和5年(1768)の記録では、賀茂神社と同規模の社地と本殿のほか、拝殿や神楽所などがありました。明治42年(1909)に賀茂神社に合祀され、社殿などは廃社となりました。

⑯ カ石墓

文政11年(1828)に建てられた所子出身の地方力士・綾川利三郎の供養塔です。カ石墓は人通りの多い場所や村の入り口などに建てられることが多く、この場所も北東方面の村の入り口として人通りが多かったことがうかがえます。



⑰ シモの六地藏さん

シモの六地藏は宝永7年(1710)の建立で、以前はサイノカミさんの近くにあったそうです。埋葬墓地への入り口に置かれています。



⑱ 神さんの通り道

賀茂神社の北正面には、建物がなく田畑などが広がる帯状の空間があり、「神さんの通り道」と呼ばれています。この空間が、「カミ」「シモ」の境界となっており、所子の大きな特徴となっています。

⑲ 門・長屋門

敷地の入り口には、木柱にしめ縄を張る冠木門、表門などのほかに、門と納屋とが合わさった長屋門と呼ぶべき独特の建物が見られます。

⑳ 国登録有形文化財 東門脇家住宅



本門脇家四代の次男が分家して興した門脇家は、本家との位置関係から通称・東門脇家と呼ばれています。主屋は文政元年(1818)の建築で、後に酒造業や金融業を営んだことから、酒蔵や長屋門内に銀行出張所跡が残されています。(一般公開はしていません)

㉑ 国重要文化財 門脇家住宅

門脇家住宅は、三代の本右衛門が明和6年(1769)に大庄屋役宅を兼ねた居宅として建てた茅葺棟造の大型住居で、太い梁を縦横に高く組み上げた構えが豪壮です。客間近くの湯殿・雪隠・茶室は庭園と調和し、大庄屋の風格と農村における文化水準の高さを物語っています。門脇家はシモの家屋群が形成される核となった家で、本門脇家と呼ばれています。(一般公開は春・秋に期間限定で行われます。)



㉒ ツカイガワ・洗い場・庭池

集落内の水路は「ツカイガワ」とも呼ばれ、所々に洗い場が設けられています。水道が整備される以前は、井戸水が飲用水として使われ、野菜などは水路の洗い場で土を流しました。



また、屋敷内に水路沿いの一角に石組みの方形の池を造ってある家が多く、ここに水路から水を引き込んで鯉などを飼っています。



㉓ 県指定文化財 南門脇家住宅

本門脇家三代の次男が分家して興した門脇家は、本門脇家の南にあり、通称・南門脇家と呼ばれています。主屋は安政7年(1860)頃に再建されたもので、近世末頃から近代にかけての屋敷構えが良好な状態で留められています。(一般公開はしていません)

